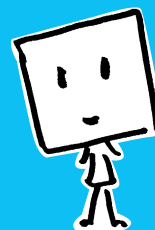




男と女が共に歩むための情報誌

Hi, あきしま

vol.17
2004.3



特集 石坂 啓さん 講演会

子どもに見せたいのは…

- People
NPO法人 ひだまり
- Book
『男の老い支度 めし支度』ほか
- Information
男女共同参画推進委員会が提言しました

特

集

石坂啓さん
講演会

子どもに見せたいのは
大人が**幸せ**に生きている
カッコよく生きている
楽しく平和に生きている

平成15年11月15日昭島市公民館小ホールにて、東京都との共催で、男女共同参画講演会「マンガ家石坂啓の言いつばなし」が行われました。マンガ家としてだけでなく、エッセイやテレビのコメンテーターとしても活躍中の石坂啓さん。約2時間、軽快な語りが繰り広げられました。

2

Hi,
あきしま

いろんな女の子を
描きたくて

「石坂啓」はペンネームです。手塚治虫さんのアシスタントをしてから独立しました。マンガの周辺で仕事ができればいいなと子どもの頃から思っていました。手塚先生が大好きで、手塚先生に何があってもお会いしたい！、お近くに行ければいい！と思っています。大学を出た後アシスタントとして合格し、上京しました。

上京して初めて気が付いたんですが、私絵が下手なんです。プロの現場には絵のうまい人がたくさんいて。私は手塚先生のアシスタントとしてちゃんとしたお手伝いはできなかったと思います。

デビューした後は、基本的に若い男の子向けの雑誌でマンガの連載を描いていたんです。いわゆるヤング誌という20歳前後の男の子向きのもの。なぜ、ここで仕事をもらっていたかというと、少女マンガのように繊細な絵が描けないということもあるんですが、男の子が読むマンガの中に描かれている女の子のキャラクターに非常に不満があったんです。

それは、男の子が見て気分がいい、男の子にとって都合のいい女の子が主人公になる。可愛い、体がいい、男の読者から反発をくらわない程度に賢い、要求に答える女の子たちなんです。私は、ちょっと待って、っていう感じがあって、なんとかこの読者層に違うマンガを見てもらいたくて、ページを割り込ませてもらっていました。

男の子が読んで気分がいいマンガがあってもいいんですよ。でも、全部の女がこうだと思われちゃ困るなあ。もっと別なことを要求する女の子もいる。もっとスケベな女の子がいてもいいじゃないかとかいろいろあったんですね。男性誌の中で違う女の子のキャラクターが描きたくて、でも人気がなくて誰も読んでくれないと仕事がなくなっちゃいますから、適度にこびながら描いていました。

赤ちゃんが来て



子どもが生まれてから、新聞にエッセイを連載させてもらいました。それまでのマンガの連載を続けたまま、赤ん坊の面倒を見るのは難しく、少しマンガの仕事が減らして、新聞に書きました。

必要に迫られていろいろと赤ちゃん情報を見ていると、模範的な母親像が求められているなあという気がしました。医師が書く本やまじめな育児書には、いいお母さんのイメージや理想の出産が書かれていました。私は、もう少し等身大の、だめだけど何とかなる、これで勘弁してください、という感じで、これから子どもを産む人にお話したかった。そして、赤ちゃんに無縁な人にも読んでもらいたくて新聞に持ち込んだんですね。

そのとき気にかけたことは一つだけです。赤ちゃんを産んで、はしゃいでいるように思われたらいけない。赤ちゃん可愛い！ 私もようやくママになりました。ってこれはやっちゃいけないと思いました。

私は割と保守的な基盤の名古屋出身なんです。子どもを産む以前に名古屋の同窓会に帰ると、子どもを持つ友達に「早よ子ども産みゃ〜」とか言われるんです。子どもを持つて一人前、子どもがいないと寂しい、どうして産まないんですか、子どもがいないと分らないでしょ。子どもがいることがプラスで、いないとマイナス。いることが当然で、いないと寂しい。その発想はなぜだろう、私は非常に抵抗がありました。

子どもを産むことが、微妙な色合いをもつて女性に制約となっている。子どもがいらないことのメリットってありますよ。私は、子どもがいらないときはいい生活を多分100%楽しんでいたいと思います。子どもを産んだからには、子どものいる生活を今度は100%楽しもうと思っっています。でも、新聞で、やっぱり子どもがいてよかった、というような書き方をすることは、別の女性の幅を狭め、追いやることだろうと感じ、絶対気をつけるべきだろうと思っていました。

最近では、女も強くなってきたとか、生意気になつてものを言って、なんて思われがちですが、女性が男性と同じように社会的に参加し、発言する、選挙に行く、自分の欲望を口にすると、これらの歴史は浅いはず。私の二世代之上の時代には、女性の生き方は選択肢が狭かったと思います。処女で結婚する。結婚は家と家の結婚で、相手の家に嫁として入る。嫁の立場として、主人とその親に仕える。そして、子どもを産まない女

は価値がないとされ、実家に帰されたりしましたよね。子どもを産んでも、子どもが健康者であり、男の子の方が喜ばれる。何人も産むことを強要されていた時代もあったことを忘れてはいけないと思います。

今までよく、戦時中のことを題材に扱っていました。もう、気が滅入るんですよ、昔、大変だったなあと。いま、戦前の状況と似ているので、私は警戒していますが、女性が



子育てで思う

ものを言っている、女性が元気でいる方が、私は平和的ではないかと思っています。

私の住んでいるところでは、中学校がお弁当なんです。これは、子どもの食事は保護者が見るべき」と

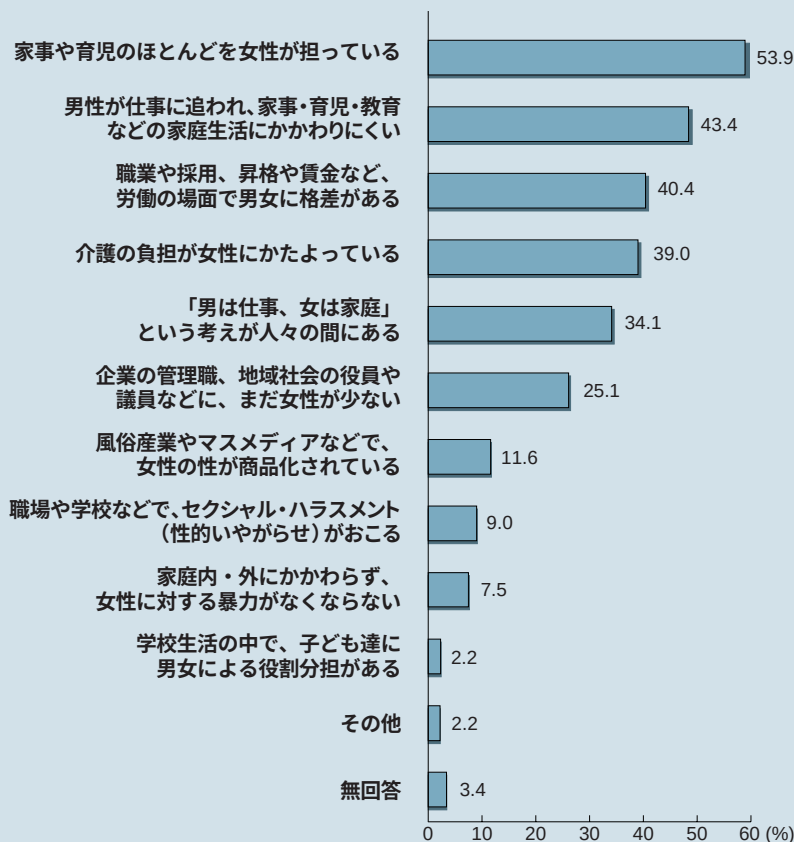
いうことらしい。その方針自体はもっともなんです。この時、出勤前のスーツを着たお父さんが、子どものお弁当を詰めている姿を想像しますか？ たいていは、お母さんが、手作りのものを用意する図を想像するはずなんです。お弁当作りに、母親の務めだという無言の強要があると感じます。

私の息子も中学生になり、今の私

の生活で、中学校のお弁当がネックになっています。なんで私ばかり仕事が増えて……なんて気持ちでいましたので。料理好きなので、お弁当作りは得意ですが、母親はこうあるべきとお上から言われるのには抵抗があります。歓迎して作っていると思われたくないな、と思っています。

安室奈美恵さんの元夫が厚生省の

Q 日々の暮らしの中で、男女平等が進んでいないと感じている人に聞きました。具体的に不平等を感じることを次の中から3つまで選んで下さい。



上のグラフは、平成15年10月に発行された「昭島市 市民意識調査」によるもので、男女が「あまり平等になっていない」(31.6%)「ほとんど平等になっていない」(4.9%)と思う人の理由です。

上位には、男性の家事・育児の不参加があがっています。共働き世帯が増加しているなか、夫婦の間で家事・育児を分担し、互いに助け合うことが求められています。それには、男性が仕事に追われるだけでなく、家族と過ごす時間や自分の時間を増やし、人間らしい生活を送れるような職場環境が不可欠です。

ポスターに出ていました。「育児をしない男を父とは呼ばない」なかなかいいキャッチフレーズだと思います。あれだけのことで、男性から、こんなに仕事忙しいのに、まだ、女は子育てを要求するのか、とブーイングがありましたね。私に言わせれば、まだ手ぬるいんです。ポスターでは、機嫌のいい赤ん坊を抱いているだけなんです。ちょっと待て、これで育児か？ と思います。

私、夫とは、割と対等に家事を半分こにしてきたつもりなんです。赤ん坊が生まれてからも、理想的に一緒に育児、なんて言っていました。どう考えても私の方にしわ寄せがきていると、ムカムカすることがたくさんありました。子どもが小さいとき、あてつけで皿を割ったこともありました。子どもを育てるときに、なんでこんなに女性に負担になるのかと思いますね。女性が割り食っているという感じ。

でも、夫は夫で確にかわいそう。出版社で編集の仕事をしている夫は、朝帰って来て寝て、起きたときにはもう子どもがいなくなつて、子どもを見ている時間がまったくない。子どもと遊んだりする余裕もない。すごい時間帯で忙しく追われています。世の中、非常に忙しい回転数で動

いているんですね。これは、働き盛りの男の人を基準とした回転数だと思えますが、子育ては効率よく、無駄なくとかできないんです。本来は、世の中、いろんな回転数の人や生き物がいてあたりまえだったはずですよ。丈夫な人や若い人、男性ばかりでなく、子どもや体が弱い人、犬や猫も全部含めて全部回転数が違うのです。

カッコよく生きる

世の中のしくみが変わるためには、人の意識が変わることが必要だと思います。

今の時代、女性の意識は先行しています。前世代を反省し、積極的に自分の行き方を要求する女性は多いと思います。現状に不満を持ったり、現実的に不都合なことを感じているんですね。男性は、ちょっとまだ旧世代の発想にとらわれて、自分の親はこうだった、とかそれは妻がやるべきこと、という意識が多い気がします。

私は、世の中は進化するものだと思っています。世の中が変わっていくときに、その一番手で世の中を引っ張ってくれる人が好きです。まだ誰も発想していないことをやって

れる人をカッコいいと思います。ただ、その人たちはあまりイイ目にあっていない人が多いですが……。

大人は自分を一人前だと思っています。自分は成人して、成熟している。子どもは未成熟で半人前だ、だから子どもを引っ張って教えて、つけて、鍛えて、と思いがちです。大人はいつから一人前ですか？ 大人になっても、ずっと完成までの途中の過程だと思うんですね。私は今、46歳なんですけど、自分はまだまだだなあと思っています。年上でカッコよく生きている人を見ると、ああいうふうになりたいと思いますね。人間はいつ、どの段階でも成長の過程にあつて、いつ、どの段階でも変わることができるといいう方が納得できるんですよ。

3歳児には3歳児の完成度がある。1歳児には1歳児のがある。子どもは、言葉の数は少ないですよ、でも、子どもなりの一生懸命。その時子どもが表現しようとしている、その熱意、目の輝き。表現せずに、伝えずに、物を言わずにいられないあの気持ちというの、こちらが感動させられるんですね。そんな子どもに大人の方がおこつて接するのは不遜じやないかと思っています。

子どもには、大人が幸せに生きて

いる、カッコよく生きている、楽しく平和に生きていることを見せることが一番だと思います。

マンガの中のジェンダー

マンガというメディアは手軽な娯楽として親しまれており、年間約6,000億円を売り上げる巨大マーケットです。それだけに、マンガが持つ影響力も絶大ですが、多くのマンガには昔ながらの固定的な性別役割分担や、ジェンダー*が繰り返し描かれています。

例えば、男性誌では、女の子はなぜか超ミニスカートに超巨乳。読み手（男性）を喜ばせるために、「こんな子いないよー」と思うってしまうほど、性的な部分が刺激的に誇張されています。また最近では、働く女性が、地道に頑張っているマンガも増えていますが、なぜか働く女性は「男性に負けなように^{かたひし}肩肘をはり」そして「有能な男性に助けられ成功する」ことが多かったりします。

女性はいつでも可愛らしくて魅力的なプロポーションで、そして、男性のサポートがないと立ち立てできないの？ マンガは小さな子どもから大人まで幅広く読まれています。マンガなどのメディアが発信するワンパターンな男女像が、子どもの柔軟なところと頭に刷り込まれてしまったら……。一度持ったイメージはなかなか払拭できないもの。だからこそ、あまりに一方的な情報の発信には、疑問を持つことも大事ではないでしょうか。

時代の移り変わりとともに、マンガも多様化してきています。男性誌にも、女性誌にも、性別にかかわらず魅力的なキャラクターがたくさん登場してほしいものです。

※ジェンダー……生物学的な性別に対して「女らしさ」「男らしさ」のように、社会的、文化的につくられた性別のこと。

People(ピープル)
では昭島で活躍する
元気な人たちを紹介します。

People

NPO法人 ひだまり

現在、昭島市の65歳以上の高齢者は、全体の16.3%です。東京都は平成27年には4人に1人は65歳以上の人が占めると予測しています。

高齢になっても、住み慣れた地域で、尊厳をもって生きたい。「NPO法人ひだまり」は高齢者のそんな思いを支えています。代表の清水和子さんにお話を伺いました。

シルバーピアから 始まった

平成8年にボランティア活動として、都営のシルバーピア（高齢者住宅）の談話室を高齢者の日中の居場所として利用することから始めました。この住宅に住む寝たきりに近い人や近所の閉じこもりがちな高齢者に、土・日曜日に集まってもらっています。主に手工芸を楽しんでいます。主には三味線を弾くこともあります。

「このメンバーで、毎年、一泊旅行にも行くんですよ」と代表の清水さんは、昨年の旅行先青梅での写真を差し出してくださいました。そこには、個人では旅行が難しいと思われるリクライニング式車椅子に乗った参加者も写っていました。

より活動の幅を広げたいと、4年前にNPO（特定非営利活動法人^{※1}）の認証を東京都から受け、市の施設

「高齢者が介護保険を利用するのはなく、予防の観点で事業をしたい。施設に人を集めるのではなく、地域に出て活動したい」そんな思いを実現させるために、市内の福祉施設で働く仲間が集まって立ち上げたのが、「NPO法人ひだまり」です。

自分自身が 楽しいから

を利用して、「生きがい型デイサービス^{※2}」を始めました。ここでは、毎週木曜日に、家に引きこもりがちな一人暮らしの方や、日中一人になるお年寄りなどを対象に、手工芸などの生きがい活動を中心に行っています。

現在、会員は50名です。それぞれの場所では、ボランティアもサービスを受ける方も、昼食を一緒に取っています。皆、参加費を払って、楽しみを共有しています。一人ひとりの食事には気を使い、肉を食べない人には肉の入っていない料理を、そしゃくの難しい人には刻み食をと、細やかな心配りがあります。さすが看護師さんや管理栄養士さんが作っている会です。ボランティアとして人のためとかでなく、「自分自身が楽しいから」と長続きをしている秘訣^{ひけつ}を語ってくれました。

新たな取り組み

昨年の11月からは、都営住宅内の商店だった場所を借りて、近くのお年寄りが毎日寄れる「ふれあいサロン」を始めました。ここでは、ミニ

健康講座、よろず相談、趣味講座などを実施しています。また今後は、介護保険の対象でない人の病院の送迎、買い物、話相手などいろいろな事業に取り組んでいく予定です。活動資金のためのバザーなども実施していますが、運営の資金源になるような新たな事業にも取り組みたい、もっと広報活動を活発にしたいと、情熱は限りなく続きそうです。

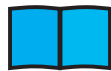


ふれあいサロンで楽しくおしゃべり

※1 NPO（特定非営利活動法人）：営利を目的と

せず、社会貢献を目的として活動する民間団体

※2 デイサービス：通所介護のこと。デイサービスセンター等での趣味・生きがい活動や入浴の介護など。



BOOK

男の古い支度 めし支度

小林カツ代著

◆海竜社



本の題名からして、お年寄りの味の薄い、男性のための料理のレシピ本ではないの？と想像してはいけ

ません。本著は小林カツ代さんらしい、明るい、元氣の出るようなエッセイでつづられ、カラー写真で撮られた多種多様な料理は本当に美味しそうです。「おいしさは世代を超える」という持論とともに、様々な料理、エピソードが紹介されています。

例えば料理講習会などの経験によると、「お年を召した方も、わりと洋食や牛肉が好き。ただし固いのは苦手」とあります。柔らかく、誰でも食べたいと思う料理方法を紹介して

います。

また全編にわたり、「自分の身体の老いた部分を知ること」が賢明に生きることにつながり、誰にとっても自立することが大切なんだというメッセージがちりばめられています。料理はそんなに難しく考えることはありません。いまさら聞くことのできない料理の基本、便利グッズの紹介もあり、幼児食、離乳食にも応用でき、広くいろいろな方々に読んでもらえる一冊です。

「育休父さん」の成長日誌

脇田能宏等著

◆朝日新聞社



1991年に育児休業法が成立してから13年が経ちましたが、まだまだ男性が取るケースはまれです。その中でも自ら、あるいは妻からの働きかけでその気になったお父さんた

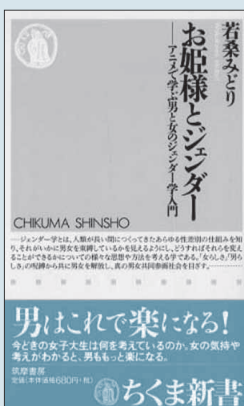
ちの育休中の奮闘ぶりが、彼ら自身の言葉でつづられています。

自分の思い描いていた育児休暇とはほど遠い現実、子どもの時間には社会のルールは通用しないことに気づいたり、子育てすることでゆっくuriとした時間の流れを感じたり。6人6様の方法で家族の関係を築いていく様子が、途中挟まれる妻のコメントからも、うかがえたりします。最終章には、制度の簡単な説明と質問コーナーがあり、これから育休を取りたい人への参考にもなっています。

お姫様とジェンダー

若桑みどり著

◆筑摩書房



白雪姫・シンデレラ・眠り姫などのディズニーアニメのお姫様ストーリーを題材に、ジェンダーをわかりやすく解説した入門書です。

女子大の講義でアニメを取り上げ、ビデオを見た学生の感想を紹介しながら、「ジェンダーって何？」「お姫様ストーリーはどうしていいの？」「男女共同参画って何かいいことあるの？」といった素朴な疑問に対し、わかりやすく答えてくれています。その中に自分の考えと似たような感想を見つけたら、また考えてもみなかった観点での意見に驚かされるもよし。学生の意見を参考に、自らの自立や男女共同参画とは何かを考えるきっかけになる一冊です。

女性相談

家族関係やからだ、心の悩みなどはありませんか？ 専門のカウンセラーによる相談です。ご利用ください。 《無料》

相談日 毎週水曜日 午後1時～4時
(祝日・年末年始は除く)

相談時間 一人50分まで

場所 市役所3階 小応接室

相談方法 電話または面接

利用方法 予約制 544-5130

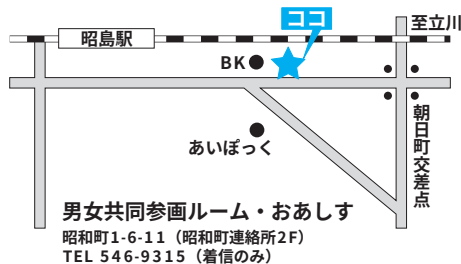
男女共同参画ルーム おあしすへようこそ

誰でもふらっと遊びにきてください。
友達とのちょっとした集まりやくつろぎの
ひとときに、「おあしす」を提供します！
また、「言いつぱなしの会」も開いていま
す。ぜひご利用ください。

開室日：水・土・日曜日（祝日・年末年始
は除く）午前10時～午後4時

言いつぱなしの会（運営委員会主催）

- ☆毎月第3水曜日 午前10時～
「わいわい語ろう！ わたしの人生」
- ☆毎月第4日曜日 午後1時～
「語ろう！ 地域活動」



男女共同参画ルーム・おあしす
昭和町1-6-11（昭和町連絡所2F）
TEL 546-9315（着信のみ）

男女共同参画推進委員会が提言しました

市では、男女共同参画社会実現のために、平成13年に「あきしまジェス21—昭島市男女共同参画プラン—」を策定しました。これを受けて、市民等8名からなる男女共同参画推進委員会は、プランについてどのような成果があったか、またこれからの課題は何かを検討してきました。その内容を男女共同参画都市宣言への取り組みなどとともに、「第一期昭島市男女共同参画推進委員会報告」としてまとめ、平成15年10月9日に市長に提出しました。検討結果（提言）の概要は次のとおりです。

《男女共同参画に関する取り組みの成果》

- ・学校教育における男女混合名簿の導入
- ・雇用平等セミナーや再就職支援パソコン講習会の実施
- ・民生委員体制の充実
- ・学童保育の障害児枠の撤廃
- ・子ども家庭支援センターの設置
- ・女性のための健康支援事業の推進

《重点的・緊急に推進して欲しい課題・提言》

- ・「あきしまジェス21」を根付かせるため、浸透させるための工夫をし、進捗状況や目標は、数値で明確にする。
- ・市民意識調査で、定期的に男女平等意識を確認する。
- ・市の広報紙などの発行物は、性別に基づく固定観念にとらわれない表現に心がける。
- ・就労上での不平等を是正するための事業所への啓発や、女性の職業意識を高めるための取り組みを進める。
- ・高齢者の社会参画のためにも、市が率先して雇用の際の年齢制限を撤廃する。
- ・意思決定の場への女性の参画が低いことから、あらゆる審議会などで女性委員比率を30%以上にする。

など

詳しくは市役所企画政策室へ。



昭島市男女共同参画都市宣言

わたしたちは、水と緑に恵まれた昭島を引き継ぎ、性別や世代を超え、一人ひとりがいきいきと輝くまちをめざし、ここに「男女共同参画都市」を宣言します。

わたしたちは

- 1 男女がお互いを認め合い 一人ひとりが尊重されるまちをめざします
- 1 一人ひとりが自立し 男女が平等なまちをめざします
- 1 一人ひとりが個性と能力を発揮し さまざまな分野に男女がともに参画するまちをめざします
- 1 職場・学校・地域・家庭をはじめ社会のあらゆる領域で男女がともに責任を担うまちをめざします
- 1 国際社会の一員として地球環境を守り 男女がともに支え合う平和なまちをめざします

平成15年1月1日



昭島市

編集後記

日頃、自分の意志を相手にはつきり理解してもらえないように伝えていくだろうか、特に夫には……？ ちよつと考えてしまいました。コミュニケーションとはまず相手を思いやることなのかと思いつつ、できない自分を反省しながら会議に参加するのでした。

編集委員

櫻坂 浩美・小酒井ひふみ
高橋 由美